事務事業評価シート　（評価対象年度：平成 30 年度）

1.基本的事項 【PLAN】

①事務事業名	保健衛生普及事業	②事業番号	4110
③事業類型	3. 政策推進事業	④開始年度	平成 20 年度
⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし		
⑥根拠法令等	○ 法令 / 条例 / 規則 / 要綱 / 計画等 / その他	法令等の名称	高齢者の医療の確保に関する法律
⑦実施手法	直営 / 全部委託 / ○ 一部委託 / ○ 補助・負担 / その他		
⑧関連予算科目コード	款 5 / 項 2 / 目 1 / 細目 1		
⑨担当部名	健康福祉部	⑩担当課名	保険年金課
会計	国民健康保険事業特別会計		

2. 事務事業の現状把握 【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 30歳から74歳の被保険者	① 被保険者数(30－74歳)(3月末)	人
② 40歳から74歳の被保険者	② 被保険者数(40－74歳)(3月末)	人

(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
人間ドック・脳ドックの費用助成を行うことで、自己負担を軽減する。また健診を受診しやすくする。	① 人間ドック受診件数	件
	② 脳ドック受診件数	件
	③	

(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
国民健康保険被保険者の健康の保持・増進を図る。	① 人間ドック受診率	%
	計算式	受診者数÷対象者数×100
	② 脳ドック受診率	%
	計算式	受診者数÷対象者数×100
	③	
	計算式	

(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け		
人間ドック等の受診により、対象者の重症化予防が図られるとともに、医療費の抑制につながる。	政策(章)	2	みんなが健やかで、みんなが助け合うまち
	施策大(節)	2	すべての市民が生涯にわたって健康な生活を送れるまちをめざします
	施策中	2	健康づくりの推進
	施策小	1	各種健診・検診、保健指導の推進

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	被保険者数(30－74歳)(3月末)	人	14,217	13,582	13,089	12,902	12,902	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	被保険者数(40－74歳)(3月末)	人	12,361	11,995	11,529	11,515	11,515	
活動指標①	人間ドック受診件数	件	1,094	1,170	1,044	1,200	1,200	—
活動指標②	脳ドック受診件数	件	140	243	84	200	200	
活動指標③								
成果指標①	人間ドック受診率	%	7.7	8.6	8.0	9.3	9.3	
成果指標②	脳ドック受診率	%	1.1	2.0	0.7	1.7	1.7	
成果指標③								
事業費 投入人員	正職員	人	0.27	0.06	0.06	0.06		事業費などの推移における特殊要因などの説明
	任期付職員	人	0.70	0.50	0.50	0.50		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.20	0.20		
事業費 事業費	人件費(投入人員＊単価)	千円	4,431	2,072	2,459	2,459		—
	直接事業費	千円	40,017	38,355	33,809	44,047		
	総事業費	千円	44,448	40,427	36,268	46,506		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0			
	府支出金	千円	0	0	20,918	40,753		
	受益者負担金	千円	0	0	0			
	その他特定財源	千円	0	0	0			
	一般財源	千円	44,448	40,427	15,350	5,753		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	病気の重症化による医療費の高騰を抑えることにより、適正な医療費により国保運営の安定化を図るとともに、被保険者の健康増進を図るため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	医療の発達により、高額な医療が増大している中、早期発見、早期治療により重症化を押さえ、医療費の抑制を図っていくことは今後のおおきな課題と考える。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価 【CHECK】

〔1〕目的妥当性（必要性）　A.高い　B.やや高い　C.やや低い　D.低い　〔1〕の評価 A

評価項目			評価及び理由・説明等
①事務事業の意図すること（目的）は、上位施策（施策小）の達成に貢献しますか。	ア	ア．する イ．ある程度 ウ．しない	人間ドックの受診により病気の早期発見・早期治療・重症化予防を行い、医療費の適正化につながる。また、医療費の適正化にかかる情報を被保険者に発することで、医療費抑制に繋げることができている
②税金を使って達成する目的ですか。 （市が関与する必要がありますか、市民（特に納税者）の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。）	ア	ア．はい イ．ある程度 ウ．いいえ	全額自己負担により、ドック受診を敬遠していた被保険者も、助成を利用することで受診機会が増えるとともに、健康増進につながり、結果医療費の適正化に結びつけることができる
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 （他団体と比較してどうですか。）	ア	ア．合っている イ．ある程度 ウ．いない	一定年齢以上を対象としていることから、受診対象者を限定している
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活（あるいは上位施策）への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア	ア．影響がある イ．ある程度 ウ．ない	自分の健康状態や医療費を見直す機会が減ることで、重症化予防が行えず結果医療費の増大につながる

〔2〕有効性　A.高い　B.やや高い　C.やや低い　D.低い　〔2〕の評価 B

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	イ	ア．得られている イ．ある程度 ウ．いない	人間ドックの受診は病気の早期発見につながり、医療費通知は自己の受診管理により医療費適正化につながる
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 （事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。）	ア	ア．ある イ．ない	受診しやすい環境整備、未受診者への受診勧奨など
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア	ア．類似なし イ．できる ウ．できない	―

〔3〕効率性　A.高い　B.やや高い　C.やや低い　D.低い　〔3〕の評価 A

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト（直接事業費＋人件費）を削減する手法はありませんか。 （業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。）	ア	ア．ある イ．ない	業務の改善できるところはその都度実施している
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 （歳入確保はできませんか。）	イ	ア．ある イ．ない	助成上限を設定しており、超過した部分は受益者負担となっている。また、府補助金による歳入確保をしている

4. 総合評価

	評価（A～D）	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	
総合評価	A	―	A：現状のまま事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休止・廃止の検討が必要

5. 改革、改善案 【ACTION】

＜今後の方向性＞

ア

ア．現状のまま継続　イ．見直しのうえで継続　ウ．終了（＿＿年まで）　エ．休止（＿＿年から）　オ．廃止（＿＿年から）

＜今後の展開方針＞

a. 重点化する（集中的なコスト投入）
b. 手段を改善する（実施主体や実施手段を変える）
c. 効率化する（コストを下げる）
d. 簡素化する（規模を縮小する）
e. 統合する（他の事務事業と統合する）

①改革、改善の具体案、実施年度など	―
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	―